

子どもの姿はプラスで見たい

連休明けの子どもたちの姿は、予想されたことはいえ、あまりいいものではないようです。

「少しいい感じになってきたかな、というところだったのに、連休明けの子どもたちの姿はまた元に戻ってしまっていました。」
という嘆きの声が職員室で聞こえてきます。



でも、教室を回っている私の実感から言うと、(そんな)に悪くはなっていないという気がします。教室を飛び出す子どもほとんどいなくなつたし、教室に入りづらいうら4年のR君や5年のO君、6年のSさんも4月始めに比べれば前進しています。

ただ、それをどう見るか、については議論の分かれるところかもしれません。
「とりあえず、子どものいい姿を見てもらえてよかったです。」
と思うか、
「ふだんと全く違う姿を見てもらっても、子どもたちの課題が親には伝わらない。」
というふうに否定的に見るか。
私は、前者の方です。少なくとも「親の前ではちゃんと

原因探しより目の前のことに具体的に対処する

また井上先生の話の受け売りですが、紹介します。

としている姿を見せたい。」と子どもたちが思い、その別があるのはありがたい、と思うのです。今は親の圧力が効いているせいかもしれないけれど、やがては自分の意志でそうなる

子どもが好ましくない行動をしたとき「ふっつ、その原因は何か」と考えます。そしてその原因を解決しようとする方向に動きます。
でも、目の前のことをなおざりにして背後を変えようとするとおかしなことになります。

可能性をちゃんともっているのだ、そういうふうに見たいと思えます。
第一、マイナスの見方は、こちらの元気がなくなります。ちらついても、「ええ感じじゃな」と思えるほう

新たに起きてしまいます。子どもとの間のことをきちんとやりきらないまま親に行ってしまうと子どもとの関係も親との関係も悪くなってしまう。だから、こちらから言えば目の前のことをちゃんとやっつけていく方が実は早いのだ。

ある生徒が、「一人の男の先生に首根っこをつかまえてひきずられてきました。
何するわやー」
「おまえ、何やったか分かるのか」
「〇〇先生なんかぶっ殺してやるー」
先生をぶっ殺すなんて、何てこと言っただい！
殺すと言っただい何がわるいんやー！……
私はそれを聞いていて先生、それやめて。」と思いましたが、先生が暴言を止めたい、そういう態度を止めたい、というのは分かるだけけれど、

それをその場で言っておさまる訳がない。火に油を注ぐだけ。更に暴れるので、この子はますます問題児になっていきます。
このとき、
「どうか、おまえ、その先生にすっつ腹たてんやな」とさえ言っただい、この子の怒りはすっつ収まっただろう。そこで対処できれば問題児を作らないで済む。対処を誤るとますます問題児にされていくってしまうのだ。
「この子の背景にはいろんな家庭の問題があるでしょう。だけれど、このでの対処をきちんとしてやる。それを続けていけば、少なくともその先生の前では穏やかになります。
思春期の時に信頼できる大人に何人出会えるか、これは非常に重要なポイントです。その一人になれるかどうかです。それは目の前の子にどう対処するかにまっしぐらになるのです。